

会 議 録

1 会議名

令和6年度第4回八千浦区地域協議会

2 議題（公開・非公開の別）

【自主的な審議】

- ・自主的審議の進め方について（公開）

3 開催日時

令和6年10月2日（水）午後6時30分から午後7時30分

4 開催場所

八千浦交流館はまぐみ 多目的室

5 傍聴人の数

1人

6 非公開の理由

—

7 出席した者（傍聴人を除く）氏名（敬称略）

- ・委員： 大島 進（会長）、羽深栄一（副会長）、伊倉正次、笠原 武、笠原幸博、
佐藤巳次、竹田充子、平野和夫、古岡和人、柳澤文雄、渡邊裕子

（欠席者1名）

- ・事務局： 北部まちづくりセンター：佐藤所長、近藤副所長、石崎係長、丸山主任

8 発言の内容

【近藤副所長】

- ・会議の開会を宣言
- ・上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第2項の規定により、委員の半数以上の出席を確認、会議の成立を報告

【大島会長】

- ・挨拶
- ・会議録の確認：平野委員、古岡委員に依頼

議題【自主的な審議】自主的審議の進め方について、事務局へ説明を求める。

【丸山主任】

7月3日の第2回地域協議会で、自主的審議の進め方として、制度的なことや様式、前期の自主的審議事項から継続している二つの事項について確認した。一つが、「保倉川放水路と八千浦区のまちづくりについて」もう一つが、「海岸線の安全・安心について」、八千浦区の自主的審議事項になっている。この二つの審議事項について、少し意見交換をしたところだが、これは前期の委員が自主的審議事項に決めたものである。第5期の皆さんが委員になられてから、それぞれ地域について思うところがあると思う。今回は、参考資料も見ていただきながら「地域協議会で話してみたいことと」して、気軽にフリートークのような形で、皆さんから一言ずつお話いただき、お互いの関心事項を知る機会としたい。保倉川放水路や海岸線以外の話題でも結構なので、お話いただきたい。

【大島会長】

今ほどの説明のとおり、「地域協議会で話してみたいこと」について、今日は、全員から意見をいただきたい。

順番に、渡邊裕子委員からお願いします。

【渡邊裕子委員】

地域について思っていることは、二つある。一つは、以前も話したが、自分でも海岸清掃の活動をしているので、海岸清掃から地域の活性化をやっていきたいと思っている。今、いろいろと計画している最中である。

もう一つは災害について考えている。八千浦地区は海沿いで、元旦の地震のときに、津波の恐怖で大変な思いをされた方もいると思うが、私が特に考えているのは、子供の避難についてである。各町内会で避難訓練をされているし、もうすぐ八千浦地区の避難訓練もあるようだが、そのやり方や子供を含めて避難訓練を実施できているのか私には疑問である。これまで自分の子供も含め、避難訓練に参加してこなかった。元旦の地震では、子供一人や兄弟だけで留守番をしていて、津波の避難指示が出たのに、親が帰って来るまで逃げなかった事例があると聞いている。今は特に、両親が働きに出ている家庭が多く、夏休みを含めて一人で留守番をしている子が多いので、災害時に一人でちゃんと行動できるように、地域として子供に避難について指導していく必要があるのではないかと考えている。

【平野委員】

八千浦地区では、横のつながりでの付き合いが多いので、縦のつながりを作るような

工夫というか、そういう場を作って、そこで皆さんの意見を聞いて、今後の自主的審議事項のテーマを設けていったらどうかと思っている。

【竹田委員】

私は、先日、皆さんにご協力いただいた海まつりに参加した。夷浜米大舟が上越市地域の宝の認定を受け、日々いろいろなところに参加させていただいている。

夷浜米大舟保存会舟踊会では高齢化がすすみ、平均年齢70歳以上、若くても50代後半となっている。歌い手、踊り手が減り、皆さんが知っているように、あれだけの人数での活動になってしまった。いろいろなところに参加するにしても、とても人数が足りなく、今、人数をどうしようか、誰に継承して行こうかという問題が出てきている。ただ、夷浜の保存会なので、他の町内から来ていただく、参加していただくということがなかなか難しい面もあり、準会員という形で、歌い手、踊り手の参加を募るため、いろいろなところで会員募集している。

八千浦小学3年生を対象に、保存会会長などが学校へ行って手ほどきをして、踊って、楽しむということも実施しているが、なかなかそこから発展しないのが現状である。なんとか踊り手を増やし、みんなでわいわい楽しく地域のいろいろな催し物に参加して、継承していければ良い。夷浜だけではなく、八千浦地区としても考えていけたらと思っている。

【伊倉委員】

八千浦地区でも高齢化がどんどん進んでいると思うが、私の住む町内会でも、空き家が今のところ三軒ほど発生している。一軒は、もうぼろぼろで、1月1日の地震で壊れるのかと思ったが、壊れずに残っている。市に言っても市では手をつけられない、町内会としても手をつけられないという状況である。もう一軒も、外壁が道路に飛んでいく危険な状態であるが、個人情報の関係で連絡先も分からず、なにもできない状況である。そういった空き家がこれからどんどんどんどん増えてくるのではないか。空き家の面倒を見てくれる人がいればいいが、いないとなった場合に、今後どのようにして取り組んでいったらいいのかと思っている。

あとは、近所で敷地を市から借りている道路があり、舗装したいということで今日も市役所へ相談に行ってきた。補助金も出るということだが、なかなか予算がすぐ組めないということで、早くて来年、再来年になるのではないかという感じであった。私は町内会長をしているので、いろいろと苦情や困りごとの相談があり、今日も街灯取り替え

に立ち会った。

町内の各組の組長が意見をまとめて、組の代表として町内会の三役へ意見をまとめて持ってきていただければと思うが、なかなかできていないという状況で、今苦勞をしている次第である。

【笠原武委員】

私は3月いっぱい町内会の役員が全て終わり、今はフリーの状態である。ただ、役員をやめたことによって、3月以降いろいろな情報の流入がほとんどなくなった。

今まで経験した中で感じているのは、八千浦地区にはいろいろな組織があり、明るい町づくり協議会、PTA、個々のグループごとにはいろいろな団体活動をしていて、いろいろと成績を上げているが、全体を取りまとめる組織が何もないということだ。

1月1日の地震のとき、私たちは中学校へ避難することになるが、確か600人の方が中学校へ避難した。避難するときは皆さんぞろぞろと来るが、帰り、解散の指示がないのに、家族ごとにそれぞれ自宅へ帰っていくという状況が目についた。最後に非常に困ったのは、グループホームの車椅子の方への対応だ。避難所に来た時は車椅子を建物に上げるために大勢の若い方が手伝ってくれたが、若い方ほど先に避難所から出て行かれて、帰る時にグループホームの車椅子をどうやって降ろすのかという問題が出て、結局、避難所に残っていた高齢の方が協力して、降ろしたという状況だった。有事の際に全体を見渡せる組織というか、もう少し具体的に動ける組織づくりが必要だと思う。

それから、私は前期から協議会委員を継続しているが、自主的審議事項になっている保倉川の放水路の件について、もう少し具体的な次の方向を打ち出してもらって、地域としてどう関わっていくのか検討したい。

【古岡委員】

今年度、八千浦中学校のPTA会長を務めており、昨日、市PTA連絡協議会に参加した。いじめや不登校問題の話になり、皆さん多分ご存じないと思うが、今上越市の小学、中学校で、学校に行けない不登校のお子さんは400人を超えている現状で、上越市も問題を抱えている状況である。八千浦地区でも学校に行けないお子さんがいるそうである。お年寄りから子供まで協力して、なにかいい案で問題を乗り越えられないかと思う。上越市だけでも400人、八千浦小学校、八千浦中学校でも行けないお子さんもいるということ、地域に知ってもらい、まずそこから少しずつ前に進めていけたらと改めて感じた。

今日は地域協議会で、ここは八千浦地区の代表だと思うので、何かいい案はないか検討したい。私だけでは解決できないし、小学校、中学校にお話しても前には進んでいかないし、明日から元気に学校へ行けるかというところに行けるわけでもないが、地域が現状を知って何かできないか考える。まずは小さなことからコツコツとだと思いがやっていきたい。

【笠原幸博委員】

今のお話を聞きながら、私が何かできることはないかと考えていた。地域協議会の話し合いを始めて、もう秋である。普通ならば、種を撒いて花が咲き、実がなるという時期だと思う。話し合いだけに留まらず、何か実践したい。

私も4月から、何か自分でできることはないかということで、ささやかだが、自分の関わっている海岸のごみ拾いと、それから草刈りを行っている。なぜそれをやったかというところ、不法投棄、ものすごくごみが多いからだ。もうこれ以上ここにごみを落とすほしくないと思いつつやっている。

八千浦が本当に一致団結できたことは、後にも先にも、1997年1月のタンカーからの重油流出事故の際、みんながボランティアで出たということだと思う。またぜひ、八千浦がまとまってほしいと思っている。

【柳澤委員】

今年から地域協議会のメンバーになったが、この地域協議会の目的や目標は、地域が元気になるとか、八千浦地区の人の満足度が高まるとか、八千浦に生まれて育て、生活してよかったというようなことだと思う。

実際、地域の問題点や、こんなふうになればいいなということを町内の人にアンケートを取ったこともないし、ほかの町内はどうかわからないし、他の人のことはわからない。だから自分のことで考えてみると、私は八千浦に生まれて育て、特に不満や八千浦地区がこうなればいいと感じたことがない。妻と二人で畑へ行ったり、家の草取りをしたり、買い物に行ったりということが、平凡だがそれで一日、一年終わっている状況である。地域協議会の目的は確かに八千浦地区が元気になったり、活性化したりというところだが、私自身はそういうことを強く感じていない。

他の町内や八千浦地区の皆さんの、こんなものがあればいい、こういうものをしてほしい、こんなことに困っているといった住民の意見が把握できていない。他の町内ではどういうふうに住民の意見を吸い上げているのか。確かに私は委員になったが、鈍感で、

あまり敏感に感じていないので、八千浦地区の人にアンケートをとったほうがいいのではないかと思う。

【佐藤委員】

八千浦中学を卒業してから50年ここを離れて、5、6年前に戻ってきた。それまで関東の便利なところにいたので、そこと比べて考えると、八千浦は便利なようで不便である。買い物が近所で済まない。これが高齢者が安心して免許を返納できない理由だと思う。現在のバス路線は鵜の浜から直江津を通して上越妙高へ行く長距離路線で1日の本数が少ない。例えば月曜日から土曜日まで小さいコミュニティバスが通り、買い物ができれば、お年寄りも安心して免許返納できるのではないか。昔は雑貨屋や豆腐屋、魚屋が近所にあったから、車がなくても生活できたが、現在は車でスーパーに行く生活様式に変わっている。

二つ目は、黒井の公園は立派だが、日陰がない。日陰がないから誰も遊ばない。恒久的な日陰を作ってもらえれば、結構広いところなので、もっと近所の人遊びに行くのではないかと思う。

【羽深副会長】

私は元々八千浦の生まれではないので、子供の頃どうだったか等は、話に聞く程度で実際のところはわからない。結婚を機に八千浦に住んで40年ぐらいになる。黒井に住んでいるが、来た当時、非常に行事が多くて、いろいろと子供が楽しめるようなイベントが多くて、私はどちらかというところそういうことが好きなので、早くから参加させていただいて、町内会でも、八千浦地区全体でも交流を持つという意味ではよかったし、そういう行事があるのは非常にいいことだと私は思っていた。

八千浦区地域協議会には前期から参加している。地域活性化のために皆さん意見をおっしゃっていたが、まず若者が出て行くのを防ぐため、イベントを通じて出会いの場を設ける、そういう場がないから結婚につながらないという意見が出ていた。その意見に私も共感したが、イベント事体がだんだん少なくなっている。一つは高齢化と若い人たちがいなくなり運営する人がいないということと、一つは参加する人自体が減っているということで、二つの要因が輪をかけてイベントを衰退させている。

子供がいらないということは、この地区だけではなく全国的にそうなのだが、出生率が減っているということである。若い人も結婚しない人がたくさんいらっしゃる。こんな言い方をしているのかどうかはわからないが、結婚しないということは、当然子供の数

が減っていったあたり前ではないかと思う。だから、出会いの場を設ける、設けない以前に、どうしても自然に高齢化が進む、出生率が下がるという時代になってきてしまっているのではないか。その辺について、私もどうしたらいいのかとここ数年思っているが、少子化対策、それから若者の流出対策ということを考えても答えが出ない、実際はそんな感じではないかと最近考えるようになってきた。

地域協議会でやろうとしていることに逆行するかもしれないが、少子化対策、地域活性化のため若者に残ってもらいたい、いろいろな行事に参加してもらいたいという、その方策を考えても仕方がないのではないかと思うようになった。最近私が地域に対して思っていることは、以上である。

【大島会長】

今年、海まつりに久しぶりに行って来た。どんな感じなのかと思い、最初から行って見た。会場の都合で、海まつりなのに海が見えないのは残念だったことと、非常に暑くて、直射日光が当たるところには長時間いられないということで、私は最初のほうだけ少し出て退席した。イベント的に、コロナでしばらく大きな海まつりをやっていないということが影響したのか、進行が遅々としていた。これは誰が悪いというわけではなくて、やはりコロナで引き継ぎができていない。先ほど羽深副会長の言った通り、各町内のイベントが少なくなったということが大きいのではないか。

各町内のイベントがたくさんあったときは、各町内にイベントを引っ張るスペシャリストがいた。私が小学校の頃だと50年ぐらい前になるが、ちょうど地区対抗運動会等、非常に活気がある時期で、そのために各町内で運動会をして、地区大会に臨むというのがあったし、当然お祭りでもたくさんの人で賑わった。私が子供のときには夷浜、遊光寺、黒井の祭りにも出かけたという記憶がある。恐らく、今の子供たちは、そういうことができていないのではないかと思う。

話は戻るが、海まつりや地域のイベントが、こぢんまりしてしまっただけで、更に八千浦地区の活気を失ってきているのではないかという気がする。昔のように戻るには、子供がたくさんいるという条件が必要不可欠である。あの頃はどこに行っても活気があったし、あの頃を思い出すと今は残念である。インターネットが普及したこともあり、スマホが普及し、急速に個人の時代になってしまっている。イベントに行かなくても、各々スマホで完結してしまっている。これは子供だけではなくて、私の職場でも実際そうである。ちょっと時間が空くと、みんな同じ所にいるのに、みんな別々のスマホを見

て個人の時間を過ごしている。

羽深副会長が最初におっしゃったが、そういう時代になってきた。ただ、その時代になってきたことを、これからどうすればいいのか、ここで少しでも皆さんと話し合いができればと思っている。

これまでの地域協議会では、跨線橋の草刈りが話題になり情報交換したことで、ある町内会は住民の作業から業者委託になり、大分助かった事案がある。今日皆さんがお話したことは、自分の町内会だけのことかもしれないが、他の町内から見ると、いいことを聞いたというネタになるかもしれないので、ぜひこの地域協議会を通じて、活発な意見交換ができればいいと思っている。

【笠原武委員】

下荒浜では今年度の祭りから、ほぼ元の状態に復活した。若い方の力が動いて、子供神輿は以前のコースに復活、PTAが主体で子ども向けの出店を運営、何年かぶりに保倉川太鼓の披露もあった。最後は恒例のビンゴゲームで、各家庭へビンゴカードを1枚ずつ配り、それを持って神社へ集まるという方法で、8時から約1時間近くみんなで楽しんだ。よく若い方が動いてくれたと思っている。下荒浜は少しずつ活動が戻ってきているという感じがしている。

【大島会長】

皆さんからたくさんの意見が出たが、更にもっと聞いてみたいという事があれば、遠慮なく発言を願う。

【渡邊裕子委員】

私は子供と一緒にいるので、八千浦地区の行事イベントがいっぱいあると感じているが、各町内会で差がある。子供会のメンバーにもよるし、その差を感じる。

今の子育て世代は、回覧板を見ない。体育推進員の方が回覧板でチラシを回しても子育て世代には情報が届いていない。私は明るいまちづくり協議会の健康増進部にいるので、カローリング等のいろいろな行事があることを知っている。子供会の役員もやっているため、できれば子育て世代の方々に参加してもらいたいと思い、SNSで情報発信するようにしている。子供会のSNSで声をかけたら、春のニュースポーツイベントに小学生が10人くらい参加してくれた。そうでなければ、回覧板の情報発信だけでは、子供の参加者は0人だった。

先ほど話があったように、時代に私たち住民がついていけないといけない部分がある。

私はスマホが大嫌いでほとんど一日見ないが、使うと便利な部分もあるということを理解して、うまく使いこなさないと、今の時代はついていけないと思うようになった。時代に合わせれば、若い人たちも活躍できるのではないか。だから、私たち協議会も、そういうことをよく知って、活用する方向に持っていく。人口がだんだん減っていく、どうしようもないと嘆くのではなく、新しい時代に合わせたものを使っていけば、今せっかくやっている行事にもっと活力が得られる。私たちの世代も、声掛け次第でもっと参加できるのではないかと考えているので、考えていくべきだと思う。

【伊倉委員】

確認したいのだが、陸橋の草刈りについて下荒浜、夷浜、西ヶ窪浜はもう業者に頼まれているのか。

【竹田委員】

夷浜は、何年か前から陸橋は業者の方に、年間1回か2回、やっていただいている。

【平野委員】

西ヶ窪浜は、4、5年ぐらい前から業者に委託して、年2回やっている。

【笠原武委員】

荒浜は、だんだんと高齢者の方が陸橋の草刈りに出てこられるようになり、これでは危ないということで、もう10年以上前から、市と協議して業者をお願いしている。一部、農道が絡んでいる部分は年間3回、住民で草刈りをやっている。

【伊倉委員】

遊光寺浜は、現在、両脇の住宅に住んでいる方からやっていただいているが、もう年をとったので何とか業者に頼んでもらえないかというような話も聞いている。他の町内会の様子を含めて、役員会で話をしたいと思う。

【佐藤委員】

回覧板の資料を挟む板が汚れて汚くなっているものがあるが、何年おきに替える計画等はあるのか。もし、新しくするのであれば、表紙に「気になる記事はスマホで写真を撮ってください」と書いておけば、そうする人はいると思う。例えば、各家庭に配らない海まつりのチラシ等の場合は、写真を撮れば見返すことができる。新しい回覧板の板に替える際は、そういうことを大きく書いてもらえればいいのではないかと考えている。

【伊倉委員】

回覧板の件について、遊光寺浜では去年新しくした。市役所へ行ったら「あげますよ」

と。

【佐藤所長】

町内会長から回覧板が破損した、汚れた、取り替えたいというような話があったときに、木田の地域政策課で、回覧板は無償で配布してくれるという話は聞いている。

【大島会長】

今日の協議はここまでとしたい。ご自身の町内会に帰ってから、また、いろいろなことが目に付くと思われるので、よろしくお願ひしたい。

続いて、資料No.1「【今後の自主的審議の進め方】八千浦地区地域協議会 意見交換・視察勉強会について」、事務局へ説明を求める。

【丸山主任】

資料No.1「【今後の自主的審議の進め方】八千浦地区地域協議会 意見交換・視察勉強会について」に基づき、説明

資料No.1は、5月に皆様に配布した地域協議会の手引き、13、14ページに書いてあることを、抜粋して作った資料である。地域協議会の委員活動として、地域の団体との意見交換、視察勉強会、アドバイザーを招いた研修会という三つの活動を挙げている。地域の活性化や地域の課題解決に向けて、議論を深めるためにこういった活動をしていきたい。

【大島会長】

今ほどの事務局の説明について、質疑や意見はあるか。

意見がなければ、私から。過去に仲田会長の時に、八千浦協議会で視察勉強会として高田の陸上自衛隊へ見学に行った。また会議を進めていくうちに、いろいろな意見が出ると思うので、またその場で願ひする。

次に、その他について、事務局へ説明を求める。

【丸山主任】

・次回協議会：11月中から12月上旬

【大島会長】

・会議の閉会を宣言

9 問合せ先

総合政策部 地域政策課 北部まちづくりセンター

TEL : 025-531-1337

E-mail : hokubu-machi@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料もあわせてご覧ください。